急発展 チェンナイ経済圏

インド・チェンナイ特集

スリシティ工業団地に熱視線

海外企業の投資を呼び込んで急発展しているチェンナイ経済圏。中でも熱い視線を浴びているのが、スリシティ工業団地だ。その魅力に迫る。

チェンナイ中心部から北方向に約60キロメートルの場所に位置するスリシティ工業団地（アーンドラプラデーシュ州）

エンノール港アクセス魅力

スリシティ工業団地はチェンナイ中心部から北方向に約60キロメートルに位置する。国道5号線を北上し、タミルナードゥ（TN）州を出てアーンドラプラデーシュ（AP）州に入ってすぐだ。

敷地面積は6000万平方メートル（約2400ヘクタール）で、現時点で欧米、インドなどの25カ国95社が進出しており、敷地面積の25％が販売済みになっている。英食品メーカーのキャドバリー、米ペプシコも進出を決めている。このうち日系企業は14社。コベルコ建機が日系企業で初めて進出した。最近では、いすゞ自動車がピックアップトラックやスポーツ多目的車（SUV）生産の新工場の建設を始めた。

スリシティ工業団地の優位性はロケーションにある。国道5号線で50キロメートルの場所にエンノール港がある。慢性的な渋滞が問題になっているチェンナイ市街を通らずにエンノール港にアクセスできる。

エンノール港の南に位置するチェンナイ港はインド有数のコンテナ港だが、すでに満杯の状態。このためチェンナイ圏内の新規進出企業は、エンノール港を利用することになるが、同港へのアクセスの良さは魅力的だ。例えばチェンナイ市南西部のオラガダム工業団地からエンノール港に行くには、チェンナイ市を縦断する必要がある。約80キロメートルの道のりを7時間もかけてトラックで輸送することもある。

スリシティ工業団地から約100キロメートル北方向には民間企業が開発しているクリシュナパトナム港もある。

コンテナ港近接 好立地

同港が完成すると、インド北部のナバシェバ港を抜き、インド最大のコンテナ港になる見込み。

また国道5号線はデリー、ムンバイ、チェンナイ、コルカタ（カルカッタ）の4都市を結ぶハイウエーネットワークの一部を形成している。スリシティ工業団地の敷地内は幅68メートルの幹線道路を中心に道路が整備されており、貨物輸送の強度に耐える設計を施してある。

工業・住居・教育地区整備

スリシティ工業団地の魅力について「地域社会の全面的な支持を得た地域開発であることだ」と指摘するのは、榎泰邦元インド大使だ。そして「日本では工業団地が売り出されると全用地を買収済みと考える。しかし、インドでは2割程度が未買収にもかかわらずに売り出し、進出後に着工できずに苦労する場合が多い」と明かす。

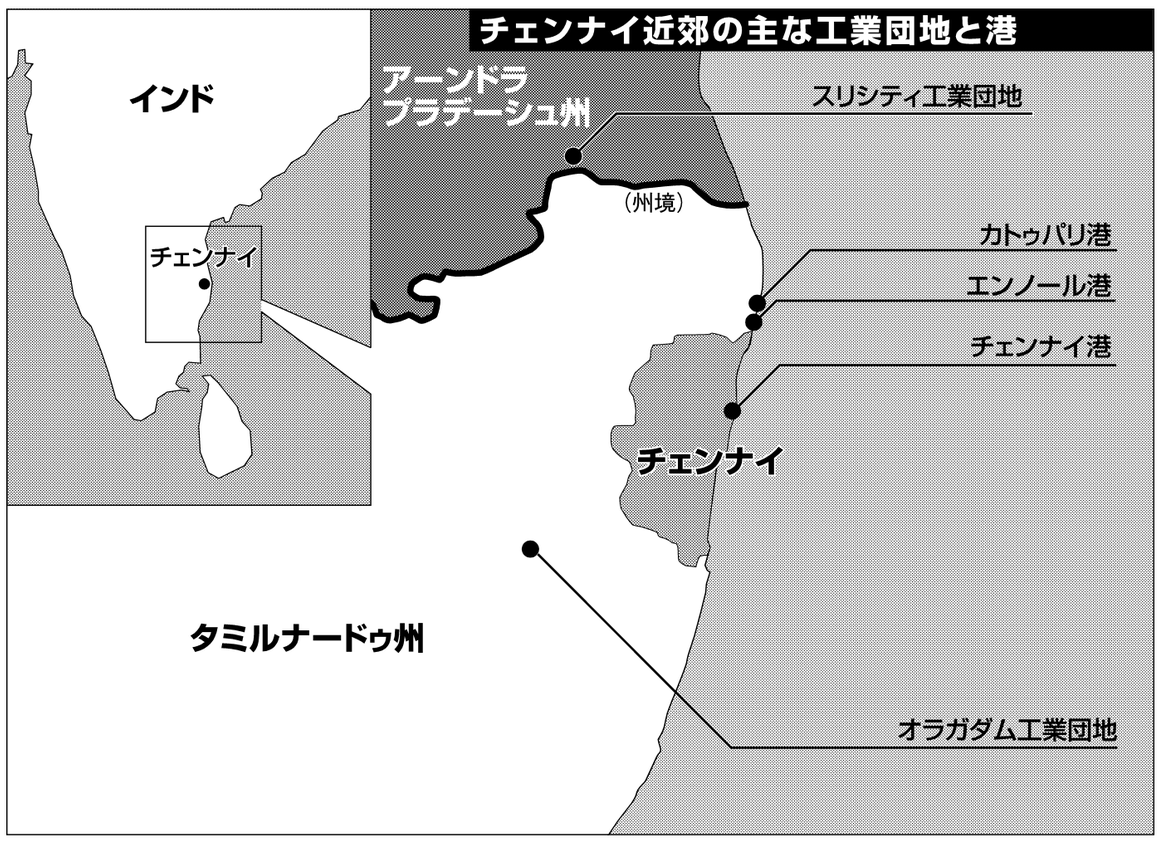
スリシティ工業団地は地元出身のラビンドラ・サンナレディー氏（スリシティ工業団地開発事業体のスリシティ社長）が全ての土地を買収し、広大な敷地を確保している。このため地元農家とトラブルになる心配もない。いずゞもスリシティ工業団地を進出先に選んだ理由として敷地が収用済みだったことをあげている。

敷地内には工業地区だけではなく、住居地区、教育地区がある。住居地区には店舗や病院のほか、寮や短期賃貸アパート、二世帯住宅なども用意。従業員の生活環境を整えている。教育地区には1000ヘクタール以上の面積で学校やトレーニングセンターなどを設置している。

州境手続き簡素・迅速化

課題もある。インド全土に共通しているがインフラ整備の遅れだ。スリシティ工業団地が位置するAP州は、オラガダムが位置するTN州よりも電力事情は良いとされている。ただ榎氏は「インド全体で平均12％の需給ギャップがあるといわれており、AP州のほうが事情が良いといっても、停電があることに変わりはない」と指摘する。

またAP州からチェンナイ圏に出荷するには、州税が課せられることも課題。榎氏は「州境手続きの簡素化・迅速化はインド全体の課題。政府は抜本的な対策を急いでいる。税制については商品サービス税の導入による国税と州税の一本化による簡素化方針を決定しており、各州との調整が続いている」としている。



企業の承認手続きサポート

スリシティ社長
ラビンドラ・サンナレディー氏

スリシティ工業団地はほかの工業団地に比べて進出のしやすさが魅力だ。複雑な法的手続きを踏まずに土地を適切な価格で取得できる。当社が進出企業の（州政府に対する環境規制などの）承認手続きをサポートし、土地の譲渡証書にサインしてから8―10カ月以内に工場を稼働できる。

インド東海岸にある四つの港にアクセスしやすいこともスリシティ工業団地のメリット。インフラが整っており、ほかの工業団地よりもサービスレベルが高いことが評価されて14社の日系企業が進出している。

中国に進出している日系企業が約8万社であるのに対し、インドは1000社しかない。しかし、インド市場は潜在力を秘めている。人口動態などから考えれば、インド経済は今後10年間、年率平均7％の成長が期待されている。内需だけではなく、輸出についても今後数年間で急成長する可能性がある。日印両国の政治関係も良好だ。製造業が進出する好機と考えている。

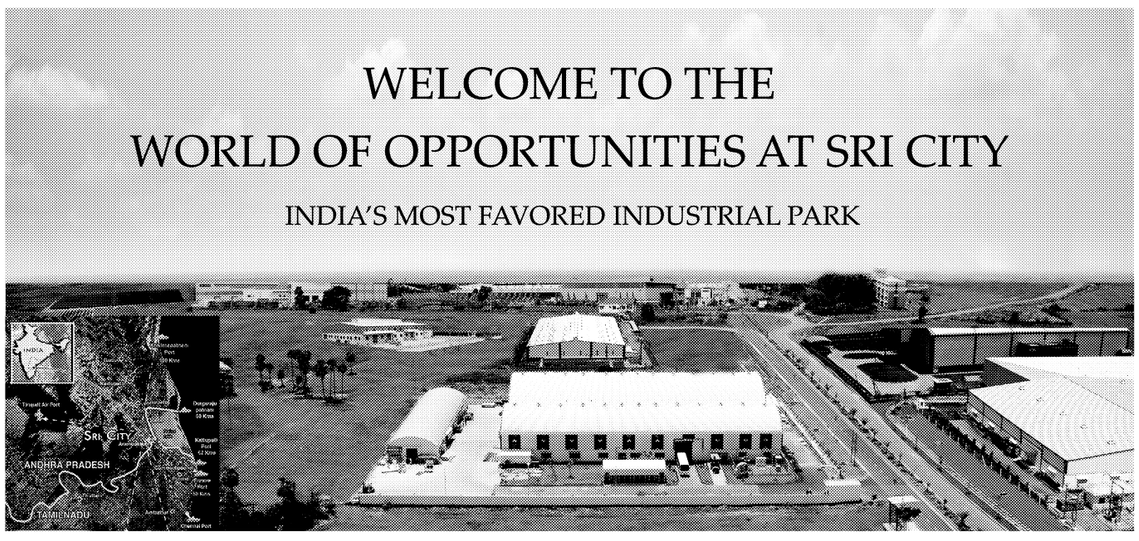
経営管理会社のアフターケア充実

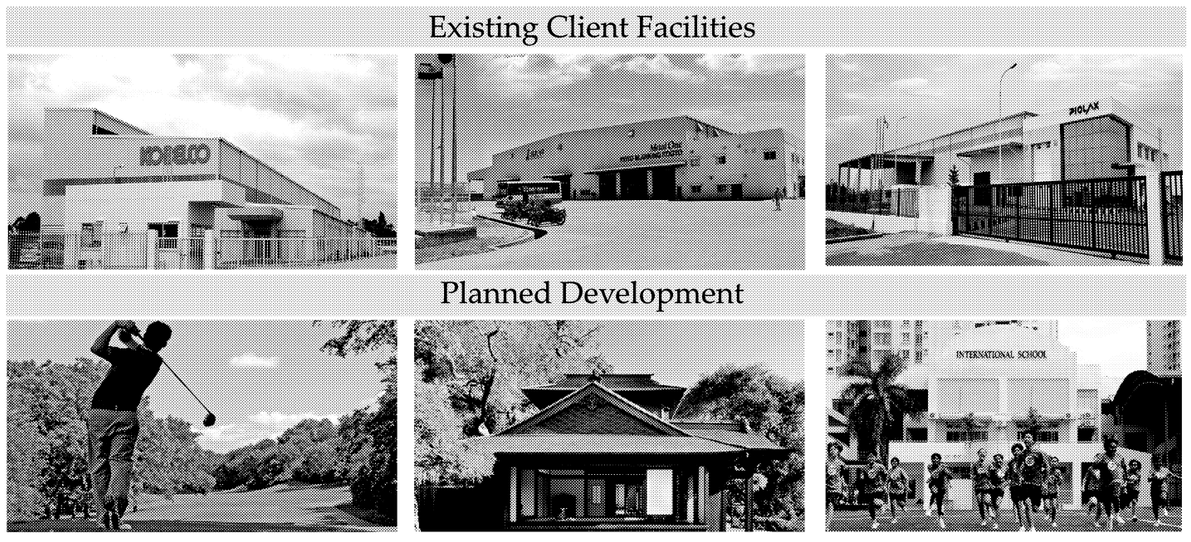
元インド大使
榎　泰邦氏

インド全体の日系企業進出数は2013年10月時点で、前年比146社増の1072社と、インド経済の低迷下でも急増している。中長期のインド経済の成長に対する期待が根底にある。

スリシティ工業団地はロケーションの優位性と合わせて土地が安価であることが魅力だ。スリシティの単価を1とすると、オラガダムなどのチェンナイ圏の南西部は3、マネッサールなどデリー近郊は9。インドの工業団地は公社が運営しているケースが多く、〝お役所仕事〟に泣かされることも少なくない。一方、スリシティ工業団地は民間のため、経営管理会社による行き届いたアフターケアを期待できる。

エンノール港へのアクセスがよいことと表裏して、自動車産業集積地のオラガダム工業団地へは、市北部から市内を通って南西部に輸送するためには時間がかかる。15年と言われる工事中の環状線の全面開通が実現すれば、事態は改善されよう。課題もあるが、総合的に見て高い評価が与えられよう。





- Multi-product SEZ
- Domestic Tariff Zone (DTZ)
- Free Trade & Warehousing Zone (FTWZ)
- Japanese Enclave
- Social Infrastructure
- World-class Infrastructure
- Special Tax Benefits
- Simplified Single Window Clearances
- 55 km from Chennai, on NH-5 (South India)
- Access to 4 Seaports within a radius of 100 km

Sri City is already home to over 100 Companies from 25 Countries including 15 Companies from Japan.
"Think Manufacturing, Think Sri City"

Already home to...
ISUZU | KOBELCO | NHK | unicharm NOLA&DOLA | IMOP | Aisan
Cadbury | pepsi | COLGATE-PALMOLIVE | ALSTOM Transport | Kellogg's | LAVAZZA ITALY'S FAVOURITE COFFEE
and more...

SRI CITY
An Integrated Business City

SRI CITY (P) LIMITED
Chennai Office : 85, Kutchery Road, Mylapore, Chennai - 600 004, India.
Tel : +91 44 3940 2000, +91 97909 46751
Sri City : NH-5, Tada, P. O., Nellore Dist. Andra Pradesh-524 401, India.
Email : japan.desk@sricity.in | www.sricity.in